

活動報告

第 33 回リハ工学カンファレンス in あつぎ報告

米田 進一

去る8月29日から8月31日の3日間に於いて、神奈川県厚木市文化会館で「第33回リハ工学カンファレンス in あつぎ」が開催されました。イベント2日目はパネリストとして参加、最終日には体験談を発表。その報告をしたいと思います。

初日となる29日、ホテルから自走で約15分程かけて移動し、厚木市文化会館に到着後、受付で登録を済ませて各発表会場に移動しました。全国から多くの研究者や当事者、学生などが集まり、普段では聴けない講演も聴けた事はとても良かったです。地下では展示ブースもあり色々見学しました。17時を過ぎて会場を後にしました。

18時から宿泊しているホテル内で懇親会があったので参加し、数名の方とお話し出来ました。

2日目、午後の部の特別企画「航空機利用への相互理解 ～ハッピーフライト～」で、私は当事者の立場から航空機利用を体験した事を伝える為、パネリストとして登壇しました。他のパネラーには航空関係者、調査員もおられました。

発表では、今年の体験談を話しました。航空機利用するにあたって、事前に「身体の状態」「人工呼吸器（以下、呼吸器）の情報」「電動車いすの情報」「配慮してほしいこと」を航空会社に伝える必要があります。頸髄損傷であり呼吸器を使用している私は、航空機利用するとなると2時間以上前には空港に到着しなければなりません。当事者にとっては大変な事です。

例えば、空港に着いた後、打ち合わせをする手順になっていた時は、すぐに対応して頂けたのですが、場合によっては情報の確認を何度も繰り返され、手間が掛かる事もあります。障がい当事者にはスムーズにチェックインが出来る様な登録情報システムみたいな物があると、より良い航空機利用が出来ると思います。凄く良かったのは、電動車いすに精密機器が取り付けられているので、入念に梱包され安心して預ける事が出来ました。

機内で苦労したのは、座席の入り口幅が狭かった事、移乗にかなり時間を要したという点です。移乗する時は呼吸器を外しているため呼吸が出来ていません。また、本音となりますが、是非、改善して貰いたいのは、呼吸器の充電が出来ないと言う点で、出来れば言うことないのですが…。そうすれば呼吸器使用者も増えるかもしれないですね。座席に着けば、フルフラットになるので身体も休め、とても快適に過ごす事が出来ました。

CAさんも所々で気に掛けて頂いたのも、とても安心できました。行きは呼吸器を啜えたままになっていたのも、帰りは風邪予防マスクを活用し、鼻マスクに付け替えて呼吸も楽にできました。この発見は次回にも活用したいと思います。

発表後、パネルディスカッションがあり、色々な質問が挙がり、とても勉強になりました。

そして最終日、原稿確認を終え時間となり登壇し「完全四肢麻痺及び人工呼吸器使用者の初めてのハワイ旅行チャレンジ」について発表しました。

前日でも話した内容もありますが、実際に現地での移動は、福祉タクシーやバス、電動車いすがメインでした。サービスとして共通して言える事は、皆が“できない”と言うのではなく、まずは“チャレンジする”事から始めてくれるという点でした。日本だと、時々嫌な顔をされる事もあるし、無理だと言われる事があります。私の電動車いすは呼吸器を背もたれに吊り下げている為、どうしても長さが気になっていました。しかしハワイでは、どの車両の運転手も「まずはやってみようよ」と言ってくれたのが心地良かったです。

ハワイに福祉タクシーの普及が殆どないのは意外でした。今後の課題として車いすユーザーが快適に航空機利用が出来るシステム作り、当事者や関係者にも関わって頂ければと思います。

最後に、私の様な呼吸器使用者が旅行する目標を掲げ、航空機を利用される方が1人でも多く増え、リハ工で発表されると嬉しいです。